



兵庫県議の号泣会見と 議場の空洞化

西宮市選出の兵庫県議が政務活動費の使途に記者会見で説明がつかなくなり泣き出す姿がテレビを通し全国に流れた。その異様さに外国メディアまで飛びつき大の男の号泣姿は世界にまで広がった。

なぜこんな人が選出されるのか？

このような県議を選ぶ西宮市民の政治感覚はどうなっているのか？

いろいろと疑問は湧いてくる。

しかし、改めて新聞、週刊誌、TVで交わされている政治評論家や元議員先生等のコメントから類推すると本会議場での議論の空洞化に原因があるようだ。

質問議員も質問原稿の棒読み、答弁者も答弁原稿を読むだけ、まだ質問されていない事項まで先読みし議事録から削除されたケースもあるらしい。

本会議の議論が台本でのやり取りでは迫力も欠けるし、退屈まぎれに品位の欠けるヤジが飛ぶのもうなずける。

議員の質の低下も当然といえよう。

これを機会に本会議場が劇場から討論の場へと本来の姿に復帰することを期待したい。

HI 記

表紙写真 大成丸 (航海訓練所提供)

これまで二代目の大成丸に代わって今年3月から就航した。今までの2隻の大成丸はタービン船であったが、本船はディーゼル機関となった。このため内燃限定のない三級海技士(機関)を取得する為に必要な練習船であったが、新たな課題が生じた。また、商船系高専、商船系大学の学生だけでなく、海上技術短大、海上技術学校の学生・生徒も航海訓練所で実習を行っており外航海運を目指す若者だけでなく内航海運を目指す若者にも対応した船が必要となり、本船は内航船として建造された。その為今までの練習船と異なってブリッジも甲板上の中央部に配置されており、内航船の主要航路を航行しながら訓練を行うため水線下船体は1000トン型内航貨物船と同程度の大きさになっている。エンジンは、低燃費、低公害(IMO(世界海事機関)のNOx規制をクリア)で、環境にやさしく、内航船で広く採用されている3,000kW(約4,000馬力)・6気筒の4サイクルディーゼルエンジン1基を搭載している。

編集後記

6月から本部常勤者も役員交代で2名が交代しました。昨年のこの時期にいたのは4人中小職1名だけとなり、すっかり初心者だけの編集作業となりました。122号からコスト軽減のため印刷所を変更した結果、レイアウト等印刷以外の作業は自ら行わなければならなくなり、1年4ヶ月が過ぎてようやく慣れてきたという時に今回の交代となりました。このような状況で何とか作り上げた会報が、今回の会報です。

細部を見ればおかしなところが一杯ある会報で見にくいことがあることをお許しください。(MS記)

全船協 No.126 夏季号

平成26年8月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司

〒101-0053 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル 8階

TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: zensenkyo@muf.biglobe.ne.jp URL: http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/